

資料1 実践経験者調査【板野中学校元生徒】

板野中学校全体学習1～2年目

30代男性 IH メール

吉成先生へ

お返事が遅くなってすみません。IHです。文章となるとなかなか難しいです。

○あの時どう感じていた？

当時、中学生でその時に感じたことを全体学習で発言したと思うし、文章にしたと思います。思い返してみると、中学1年生か2年の時から全体学習の準備というか、発表の場が始まっていたのかなと思います。当時は人権教育ではなく道徳教育でした。道徳の教科書を先生が読んで、その感想を書かせるものだったように思います。1年生の後期か2年生になって、体育館で1クラスを取り囲むように全体学習がはじまったように思います。

当時は、2年生までは、発表するクラスではなく、主に周りにいるクラスでした。最初は、大がかりなことなので、その驚きと、なんでこんなことをするのかと漠然と思っていたと思います。3年生になり、その担任が〇〇先生でした。今でも、家庭訪問の時の思い出がよみがえってきます。そこから、自分自身も変わったように思います。

全体学習も定着し、活発に意見が出るようになり、同学年での発表が増えました。また、1年から3年生までの全体学習をするまでになりました。

あの時は、何も考えず、感じたことをそのまま発言したり、その言葉を聞いて、賛同したり、なんていうか、私は、こんな体験をしたというのを教員や生徒の関係を超えて、感じた矛盾や悲しみや怒り、いろんなものをぶつけ合ったと思います。

身近な家族から差別的な発言をきいた、兄弟姉妹が結婚するときに周囲からの反対があった、自分の家族が差別にあっている、等々。自分だけ悩んでいるのかと思うとそうではなく、同じようなことで悩んでいた、全体学習をとおして、実はそれが相手を傷つけたり、差別をすることであることに気付いた。気付いて、同学年の意見を聞いて、自分で考えて発表することで、自分のこととしてどうしたらよいかということをおぼつけることのできる場所だったように思います。

○数年経って今どう思っている？

中学のようにある意味守られた世界ではなく、就職し社会にでると色々な問題にぶつかります。全体学習の発表で聞いていた、差別的な発言や結婚の反対など、なんとなく聞いていたことが、現実にあります。

今思うと、全体学習をしていたから、負けずにやってこられているのかなあとと思います。特に思うのは、自分に子供ができたので、自分の体験や考えを伝えたいという気持ちと、その子たちにどう伝えていくのがいいのかなあと。

最後に、一人の先生がきっかけで始まったかもしれませんが、当時の校長先生から生徒に関わるすべての先生にいたるまで、いろいろな試行錯誤のなかで全体学習が作られてきたのではないのでしょうか。先生方も生徒から何かを感じ、発信したからこそ、他校からも見学に来るようなすばらしいものになったように思います。その学年が卒業したり、先生が他校に移っても、新入生が入り、新しい先生が入って、全体学習が続いていけば、それは、その学校の「ねんりん」になって輪が続いていくような気がします。